

ぴゅう太でアニメーションしちゃおう



鈴木
くん

ある日のことでした。ポポタン研究所のライオネル博士は、

「ちょっと散歩にでかけてくるね」

とでていったきり戻ってきません。おかげで助手の鈴木くんは、大忙し。ぶつぶつ言いながら博士の残っていた仕事をかたづけています。



ライオネル
博士

……おや!? やっと博士が帰ってきたようです。また今日はヤケに嬉しそうなようす。レレッ? 小脇に何かかかえているようです。一体、何を手に入れたのでしょうか。

ジャーン。ライオネル博士の持っていたものは、ぴゅう太ではありませんか。

ぴゅう太はこんなことができるのだ

「このぴゅう太は、誰にでも簡単に絵が描けるのよ。まあ、グラフィックコンピュータというわけですな。……しかも、自分で描いたその絵をGBASICで動かさせちゃう」

博士は鈴木くんに自慢気に説明しています。



ぼく